



TITLE:

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ(半翅目, セミ科) の一日の鳴き始め時刻の2017年の月変化

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ(半翅目, セミ科) の一日の鳴き始め時刻の2017年の月変化. KINOKUNI 2017, 92: 17-18

ISSUE DATE:

2017-12-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228381>

RIGHT:

発行元の許可を得て登録しています.

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 構内でのクマゼミ（半翅目，セミ科）の 一日の鳴き始め時刻の2017年の月変化

Monthly change of initial time of droning of *Cryptotympana facialis*
(Hemiptera, Cicadidae) in a day in the campus of the Seto Marine
Biological Laboratory, Kyoto University at Shirahama Town,
Wakayama Prefecture, Japan in 2017

久保田 信

はじめに

南日本において主として夏季の午前中に鳴くクマゼミ *Cryptotympana facialis*（半翅目，セミ科）が、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内で、2017年には10月中旬頃まで鳴き声が聞けた。今回、8月下旬から毎日最初に鳴き出す時刻を記録し、2016年の状況（久保田，2016）と比較した。

材料と方法

2016年8月22日から10月中旬までの期間中、筆者の研究室（京都大学瀬戸臨海実験所研究棟の2階の東端の部屋）で、晴天あるいは曇天日の早朝から正午位までの時間帯に、クマゼミの鳴き声がその日の内で最初に聞けた時刻を記録した。

結果と考察

調査期間中、鳴き始めが最も早い時刻は晴天の8月23日の6時12分で、最も遅く鳴いた時刻は晴天の10月3日の11時25分であった。2016年に遅鳴きの最終日となった10月20日に鳴いた時間は11時頃だった（久保田，2016）ので、これは今回と同じ月で、ほぼ同時刻でもあった。しかし、今回の遅鳴きの最終日は10月13日で、その時刻は9時16分と1.5時間以上も早かった。一日の内で11時代という遅く鳴いた日がもう一日あり、晴天の9月30日の11時18分であった。

8月22－31日の期間中の6日間での鳴き始め時刻は6時12分－7時55分で、9月10－26日の期間中の7日間（上述の9月30日の11時18分[遅鳴き時刻の理由は不明]を除く）では7時40分－8時37分と遅くなった。後者の期間中の7時代での鳴きは9月13日のみとなった。なお、台風18号の影響があった9月17日（小雨日）と18日（晴天）は、それぞれ9時17分と9時11分で、上記の時間幅よりも少し遅い時刻になって鳴いたが、これは日照と気温等の気象の影響であろう。

最終月の10月3－13日の期間中の6日間では、8時10分－11時25分と時刻がかなりばらついた（8時台が3日，9時台1日，10時台1日，11時台1日）。2016年の最終月の10月11－18日までの期間中の3日間では、鳴き始め時刻が8時55分－9時40分だったので、2年間の記録からは10月に多少は遅く鳴く

ようになる傾向もあった。

引用文献

久保田 信. 2016. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ（半翅目，セミ科）の一日の鳴き始め時刻の月変化（2016年）. KINOKUNI, (90): 22-23.

（くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）

和歌山県産の矮小なクマゼミ（半翅目，セミ科）

Dwarf *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) in
Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

体長が通常6-7 cmで、日本産のセミ類では最大級であるクマゼミ *Cryptotympana facialis*（半翅目，セミ科）は、関東以南に分布する夏季出現種であるが、近年、秋季になっても和歌山県白浜町では遅鳴きが聞こえる（久保田，2016）。

以前、本種の小型個体に佐賀県で遭遇したが、今回、和歌山県でさらに小型個体を発見したので報告する。

2017年8月26日早朝（8時過ぎ）、和歌山県田辺市の新庄公園の田辺市立美術館付近で、クマゼミの相当小さい個体が発見された。クマゼミしぐれも下火になった頃に発見されたこの死体は雌で、体長30 mm、最大体幅17 mm、後翅長27 mmであった（図1）。従って、本個体は体長が通常の半分位の大きさの奇形であろう。なお、佐賀県産の個体が体長41 mm、最大体幅17 mmで、白浜町産の雌が体長44 mm、最大体幅21 mmであったので（久保田，2013）、本体はこれらよりもはるかに小さい。

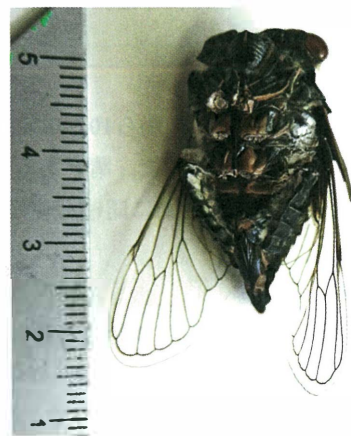


図1 新庄公園で発見されたクマゼミの矮小個体

引用文献

久保田 信. 2013. 佐賀県鹿島市の小型のクマゼミ（半翅目，セミ科）. くろしお, (32): 30.

久保田 信. 2016. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ（半翅目，セミ科）の2016年の遅鳴き. KINOKUNI, (90): 15-16.

（くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）